



令和4年度「国際交流キャンプ」を振り返って

本事業は、日本で勉学に励んでいる留学生と県内の中高生が交流することを目的とするとともに、国際社会に向けた学生の視野を広げ、相互の異文化理解と交流を図ることをねらいとして実施しました。

県内の大学で勉学に励んでいる中国、インドネシア、ベトナムから10人の留学生、中高校生21人の計31人の参加者が、うどん打ち、キャンプファイア、交流会を楽しみました。

(1) 出会いのつどい、出会いのレクリエーション

スタッフ自己紹介の後に、出会いのレクリエーションを行いました。自分の名前であいうえお作文を作り、初めて顔を合わせる参加者同士で自己紹介をしました。ちょっと恥ずかしそうにしながらも、楽しくできました

【参加者アンケートから】

- ・自己紹介をし合うことで、初対面の人でも話すことができた。



(2) 「うどん打ち」

グループに分かれて、うどん打ちを行いました。ほとんどの人が初めての体験となりましたが、グループの人と協力して楽しく活動することができました。参加者全員で、日本の文化を体験しながらコミュニケーションを取り合うとともに、段々と会話が弾んでいく様子が見られました。

【参加者アンケートから】

- ・仲間と協力して作ったうどんは、最高においしかった。
- ・グループでうどんを作ることができました。チームの協力が素晴らしいものでした。
- ・班の人と協力しながら、一つのを完成させる楽しさが味わえました。



(3) キャンプファイア

初めて会った友達との輪が広がり、1日目の夜になりました。トーチの火が薪に燃え移り、力強い炎が参加者のみなさんの横顔を照らしていました。レクリエーションなど、楽しい時間があっという間に過ぎていきました。

【参加者アンケートから】

- ・初めてキャンプファイアをしました。とても楽しかったです。
- ・炎がとてもきれいでした。みんなと話げできたことも楽しかったです。



(4) 交流会

第1部では留学生が母国を紹介し、中高校生は住んでいるところで有名なもの・観光スポット等を紹介しました。そして第2部では留学生一人一人がブースを設けて、日本の中高校生に母国の文化を体験してもらいました。漢字や文化の学習、それぞれの国の遊び、お菓子の試食など、バリエーションに富んだ内容を披露していただきました。留学生も中高校生も常に興味関心のある表情でした。私たちスタッフも一緒になって学びました。

【参加者アンケートから】

- ・外国のことや地元のことを紹介し合えたので良かったです。
- ・それぞれの文化や習慣、日本との違いを知ることができてよかった。
- ・みんなと話をしながら、他国の文化や言語を体験することができた。



＜全体を振り返っての感想＞ （満足97%、やや満足3%、やや不満0%、不満0%）

- ・はじめは不安な気持ちが大きかったけど、みんなが優しく声をかけてくれてとてもうれしかったです。
- ・国籍が違って、人と人とはつながり合えるということがよくわかりました。
- ・中高生が活発で自発的に活動していた。学ぶ意欲を強く感じました。
- ・留学生の方々が積極的に話しかけてくれて、様々な文化に触れることができた。最高で貴重な体験ができた。



別れのつどいでは、中高生、留学生双方から感想発表していただきました。皆さんから、充実した2日間を過ごしていた様子を聞くことができました。本当にありがとうございました。

「国際交流」とは、他国の人と交流することでお互いの国についてよく知ること、またはそのための活動を指す言葉です。ときに「異文化交流」と呼ばれることもあります。社会のグローバル化が進むなかで、国レベルの関係者同士での外交だけでなく、私たち一人ひとりが交流して、異文化に対する理解を深める必要性も高まってきました。日本が今後も世界に開かれた社会であり続けるために、国際交流はますます重要な取り組みになっていくでしょう。だからこそ、今後も国際交流キャンプの継続を目指していきたいと思います。

最後に、「国際交流キャンプ」を実施するにあたり、新潟県国際交流協会の皆様をはじめ、多くの県関係機関の皆様のお陰をもちまして、事業を行うことができました。感謝申し上げます。

国際交流キャンプ担当：指導課 星野 貴之、田原 成久